

「消化器内視鏡③十二指腸 乳頭部・膵管・胆道・肝臓」

昭和大学教授 藤 田 力 也 編集

国立京都病院長

三 宅 健 夫

今回、昭和大学藤田力也教授編集の「消化器内視鏡③十二指腸乳頭部・膵管・胆道・肝臓」を手にすることができた。

日本消化器内視鏡学会は創立以来28年を経過し驚異的な発展を遂げ、1987年3月1日現在で会員数は12,319名に達した。その間、本学会の果たした役割は大きく、国際的にもその業績は高く評価され、本学会はわが国の学会を代表するものの1つと言って過言ではない。

本年内視鏡卒後教育法が改正され、また新しい方向性を含めて学会認定専門医制度が発足した。専門医制度と卒後教育法とは表裏一体の関係にあることは言うまでもない。今後はこの消化器内視鏡教育法に準拠して、一定の基準を修得したものについて、専門医制度審議会は認定医あるいは認定専門医として認定してゆくのであるが、教育法に示されているように多くのカリキュラムが盛

られている。これらのカリキュラム、すなわち基礎教育と専門教育とを盛り込んだ教科書の実現が実は待たれていたのである。

本書は、編者も述べておられるように、研修医、初心者のための手頃な入門書として、教育法に示されているカリキュラムのすべてが記載されていて最適の教科書として利用できるものである。従来多くの消化器内視鏡に関する著書が上梓されたが、本書はまさに新時代に即した教科書として推薦できる。

その特色として、第1に局所解剖が誠に詳細に記述してあることである。第2に検査法および治療法の項目では、永年豊富な経験を有しておられる指導医クラスの新進気鋭の各執筆者が、それぞれの創意工夫をこらした記述と共に、豊富なX線、内視鏡などの美しい図版が紹介されている点である。更に第3に、診断のすすめ方として鑑別診断を重点と

して執筆者の経験が豊かに盛られていることである。参考文献も、自己の論文のみに固執することなく最新のものに至るまで幅広い視野にわたってまとめられている。

このような教科書の出現は、初心者、研修医クラスの若い医師にとって、初めてのことはあるまいか。卒後教育法にたずさわってきた者の1人として、筆者は学会推薦の教科書があってもよいと考えている。その際本書などは最適のものであると思う。

また、本書は初心者、研修医クラスの医師のみならず、専門医、指導医を目指す医師にも、より高度の内容を備えたものとして役立つ。

分担執筆による書物は、往々にして編者の意図が十分に生かされ難いものであるが、本書は各執筆者が編者の意図をよく理解し、かつ思う存分筆を運んでおられ、統一したスタイルとなっているのは見事であると思われる。

本書が、学会セミナーのAコース、Bコースともに将来認定医、認定専門医および指導医を目指す医師に好個の教科書として役立つことを信じて疑わない。

B5判 250頁 図45 写真129

原色図64 1987 ¥22,000 円400

医学書院 刊